



はじめに ラフスケッチ …2

Chapter 1 反対咬合の社会的な位置づけ …5

- 疑問の声 …5
- 反対咬合の発症率 …6
- 様子見を勧める …6
 - 萌え変わるとき、治るかもしれない／反対咬合の自然治癒率／
 - 低年齢児期の反対咬合に「ふさわしい治療法」がなかった
- 乳歯列期からの治療を勧める—早期初期治療 …8
 - 下顎4前歯の反対咬合／下顎6前歯の反対咬合／6前歯の逆被蓋は自然治癒しない

Chapter 2 不正咬合の原因とその治療 …10

- 不正咬合はどのようにして起こるのか …10
 - 歯列弓を不正咬合に導く力／オーラルシールドに求められる条件
- 筋機能訓練 …13
 - オトガイに過緊張／舌の挙上／原因療法
- 咬合平面の変化 …14
 - 咬合平面の形成／アングル分類の形成／不正咬合の垂直的視点と水平的視点／
 - 咬合平面の平坦化、ウィッツ(Wit's)値の改善／第1大臼歯の垂直的咬合誘導／
 - 反対咬合の特徴と治療目標

Chapter 3 筋機能訓練装置 …18

- 顎外矯正装置 対症療法 …18
 - チンキャップ、フェイシャルマスク／アクチベーター
- 筋機能訓練療法 …19
 - ムーシールド／ムーアプライアンス

Chapter 4 ムーシールドの構造、造り方 …21

- ムーシールドの基本構造 …21
- チェアサイドでの作業 …21
- ラボワーク …22
- 既製ムーシールドの応用 …24
 - サイズの調整

Chapter 5 初期治療の適応症・非適応症 …26

- 骨格性、歯性反対咬合の鑑別診断 …26
 - セファロ／口腔内、石膏模型／
 - 難易度の臨床的な判断：フェイシャルパターン、被蓋の深さ
- 初期治療の非適応症 …29
- 小児歯科、矯正歯科との連携 …29

Chapter 6 ムーシールドの使用法 …30

- 夜間就寝時の使用に対する心構え …30
- 装着時の指導 …30
- 通院時、チェック項目 …31

Chapter 7 反対咬合治療のガイドライン—早期初期治療の重要性— …32

- 症例：被蓋を改善し経過をみる …32
 - 次の治療が容易になる
- 早期初期治療の重要性 …33
 - 正常な発育ラインに乗せ換える／成長を阻害する因子を除去する／
 - 利点欠点／難易度の高い症例
- これからの時代 …34

ケースプレゼンテーション …36

- case1 治療開始：10歳4ヵ月／ case2 治療開始：8歳7ヵ月／
- case3 治療開始：3歳2ヵ月／ case4 治療開始：6歳5ヵ月／
- case5 治療開始：5歳8ヵ月／ case6 治療開始：3歳0ヵ月

参考文献 …47

Column 難症例・注意が必要な症例

- ラテラルクロスバイト …35
- 骨格性反対咬合＋下顎前歯の叢生 …46